
ボックス！

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ボックス！

【Nコード】
N4465L

【作者名】
ごほんライス

【あらすじ】
ショートコント。ボクシングの試合が終わったあとの控え室でのワンシーン。

控え室で、大竹誠は、椅子に座ったままじつと動かなかった。そして、大粒の涙を流した。ボクシングの試合に負けたのだ。会長は誠の背中を叩いた。

「オレに触るな！」

会長はびくつとした。

「す、すまねえ会長」

会長はちよつとむつときた。

「ふん。弱いから負けたんだよ。ただそれだけさ」

「なに」

誠と会長はにらみ合った。

会長はファイティングポーズをとった。誠は舌打ちした。会長はじいじである。普段なら一発で倒せる。しかし、今は試合が終わり疲労コンバイしている。とても相手などしておれない。

「ふん。びびってるのか」

あー！ー！！！むかつくこと言うなー！ー！！！！

しかし、誠は無視した。バカに付き合ってる場合じゃない。少しでも体を休めないと。

会長は誠のカバンから、お守りを取り出して見せた。

「ああっそれはロリ華からもらった勝利祈願のお守り」

「ふん。負けたんだからもういらないだろ？」

会長はふふふと笑い、それを床に落とし、足で踏みつけた。

「じじiiiiiiiiiiiiiiiiiiii」

頭に血が上り、誠は会長の胸倉をつかんだ。

「ふん。いい目してるじゃねえか」

「は？」

「そういう熱い目をしてるならまだまだ行けそうだな」
会長は、ふふつと笑った。

「か、会長」

誠は涙が出そうだった。今度は負けたことからくる悔し涙ではなく、嬉し涙であった。

「あ。そうそう。奥さんから預かってるものがあるんだ」

「え。なに」

会長は自分のカバンをまさぐった。

「ははっロリ華ちゃんから、新しいお守りあるんだ。うへへへ」
なんだろう。

「じゃーん」

会長はカバンから、ブラジャーを取り出した。

「そ、それは」

「ロリ華ちゃんのブラジャー。お守りだよ」

「ほえ」

誠はぶぶつときた。天然のロリ華らしいや。そんなにオレがやる
気が出るとでも？

出るとも！

「会長、ありがとう」

「なんかあげたくないな」

「は？」

「これ、わしのお守りにしよ」

「ちよ、何言ってんすか。人の女房の」

「これでいろいろ遊ぶ。ぐふふふ」

「てんめーーーーー!!!」

大乱闘。

しばらくしてロリ華がやって来て、下着泥棒を叩きのめしたことは
言うまでもない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4465/>

ボックス！

2011年1月27日00時43分発行